



神奈川大学図書館 開架閲覧室

## CONTENTS

● さようなら、横浜図書館 40年の感謝を込めて！

—図書館アルバム— ..... 2頁

● 横浜図書館10月展示報告&所蔵資料紹介

最後だから全部見せます！図書館所蔵貴重資料の全て

—文学編— ..... 6頁

● 図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記 ..... 8頁

# さようなら、横浜図書館 40年の感謝を込めて！

## — 図書館アルバム —

横浜図書館は、2021年4月開館を目標に2019年度末から2021年3月まで改修のため閉館する予定でしたが、諸般の事情により計画が一年延びる事になりました。新たな図書館は2022年4月にオープンする予定です。また、現図書館の閉館期間、閉館中の代替施設については検討中です。計画が変更になったために現在の図書館を振り返り、お別れを告げる時間も増えました。また、計画に時間をかけることでより素晴らしい新図書館になることでしょう。

現在の神奈川大学図書館（15号館）は1980年（昭和55年）、創立50周年記念事業の一環として設立されました。図書館にある机や椅子、様々な用品の多くは開館当時からずっと使い続けられたもので、その一つ一つに図書館の歴史が刻まれています。

今号では図書館で長年の使用に耐えてきた様々な物品、設備を写真で振り返ります。



真鍮の表示盤



階段の壁面やエレベータ脇にある階数表示盤。真鍮素材でレンガの色と調和した美しいデザイン



入口ホールから1階に上がる階段

## 新聞架



図書館では毎日、その日の朝刊をセットして朝の開館を迎えました。毎朝ここで新聞をチェックしたという人も多かったことでしょう。

## 時計



## 閲覧室入口の木製扉



## 給水機

図書館では水分の持ち込みが厳禁だったため、給水機で水が飲めるようにしていました。ペットボトルなどの飲み物が許可された現在でもこの給水機は活躍しています。



## 傘置場

現在は使われていませんが新築当時は、玄関の脇に傘を置くための部屋があり、細長いロッカーに傘を横倒しにして入れられるようになっていました。

## 木の閲覧机・椅子

開館当初から使われている閲覧机や椅子は  
自然の素材を生かした木製でした。  
長年使用した木の机や椅子には、時の流れが  
刻まれているかのように思えます。



長年の使用に耐えた  
頑丈な作りの机や椅子



3階 第4、第5閲覧室の  
机と椅子

## 照明



エントランス  
左手上部

特徴あるデザインの照明は、それぞれの場所にふさわしい明るさや光の色を  
考えて設置されていました。



リフレッシュルーム



雑誌閲覧室上部

エントランス上部



図書館の設備は時代を感じさせるものが多くあります。そして、それらの物には図書館の40年の記録が刻まれているように感じます。あらためて素晴らしい図書館で過ごせた事に感謝したいと思います。

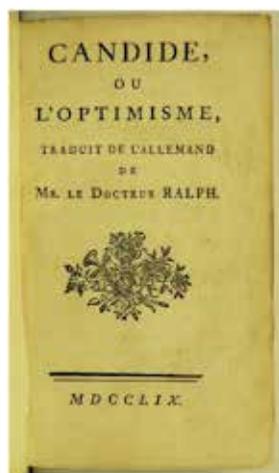
## 最後だから全部見せます！図書館所蔵貴重資料のすべて

### —文学編—

横浜図書館の1F展示コーナーでは、一定のテーマのもと数世紀前の貴重資料や普段は目にすることのないめずらしい資料を紹介してきました。しかし改修・閉館のため、現在の図書館での企画展示は終わりになります。そこで感謝を込めて、神奈川大学図書館が所蔵する貴重な歴史的書物の数々を何回かに分けて展示することになりました。その第一回目に「文学編」として18、19世紀の書物を中心に展示しました。今回はその中から主なものを紹介いたします。

#### ヴォルテール『カンディード、あるいは最善説』 1759年

ヴォルテール (Voltaire, 1694-1778) はフランスの啓蒙思想家、作家。本名はフランソア＝マリ・アルエ (François-Marie Arouet)。早くから文学の才能を示し二十代半ばで名声を得、その後の生涯に渡る華々しい活躍ぶりは周知のとおりである。ヴォルテールの類まれな才能が残した様々な作品の中で最も有名な文学作品は、哲学的コトの最高傑作とされる1759年出版の本書『カンディード』である。作者は“ラルフ博士のドイツ語文からの翻訳”とされているが、これは検閲を免れるための表記である。ナンセンスなストーリーの中にはライブニッツ哲学や当時の聖職者に対する強烈な批判が込められ、ラストの「しかし、ぼくらの庭を耕さなくちゃなりません」は、名文句として記憶されている。



*Candide : ou, l'Optimisme / traduit de l'allemand de Mr. le docteur Ralph [i.e. par Voltaire]. -- [Genève : Cramer], 1759*

請求記号：A953-375(貴重)

#### チャールズ・ディケンズ編集『オール・ザ・イヤー・ラウンド』 1859-1895年



ディケンズのジャーナリストとしての活動を伝える1859年4月創刊の雑誌。この雑誌には『二都物語』『大いなる遺産』など自らの作品も掲載された。本図書館所蔵は1861年9月28日号-1862年3月8日号、1873年11月1日号-1874年4月11日号のそれぞれの合冊版である。ディケンズが1870年に亡くなった後は息子のチャールズ・ディケンズが1888年まで編集し、1895年に廃刊になった。

*All the year round : a weekly journal / conducted by Charles Dickens -- London : Chapman and Hall, 1862-*

請求記号：A938-188(準貴重)

## トマス・ローランドソン挿絵、ウィリアム・クーム著『ドクター・シンタックス』

1813年 -1821年

18世紀イギリスではウィリアム・ギルピン (William Gilpin, 1724 - 1804) が提唱した「ピクチャレスク」という美意識によって、絵のような美しい風景の鑑賞や旅行熱が盛んになった。本書は、この時代に出版されたイギリスの諷刺画家トマス・ローランドソン (Thomas Rowlandson, 1756 - 1827) の挿絵にウィリアム・クーム (William Combe, 1742 - 1823) が詩を付けたユーモラスな冒険物語である。文学というよりはむしろ画集としてみなされたこの作品は大きな人気を博し、イギリスではドクター・シンタックスの図柄が入った料理皿や花瓶、マグカップなどが売り出されブームになった。

*The tour of Doctor Syntax, in search of the picturesque : a poem / William Combe, 3rd ed. - London : Ackermann, 1813*  
請求記号 : A931-575(準貴重)



## 東の国からの詩の挨拶 / フローレンツ 第八版

1904年



カール・フローレンツ (Karl Florenz, 1865-1939) はドイツの日本学者。1889年に来日し東京帝国大学でドイツ語、ドイツ文学などの教鞭をとった。本書は東の国=日本の詩歌をドイツ語で紹介した詩集で『万葉集』などから多くの歌が紹介されている。絹織物のちりめんのように細かい皺を加工した紙を使った「ちりめん本」は、当時外国人にも人気があり、本書の出版人長谷川武次郎が考案した。

*Dichtergrüsse aus dem Osten : japanische Dichtungen / übertragen von Prof. Dr. K. Florenz in Tokyo, 8. Aufl. -- Leipzig : C.F. Amelings ; Verlag Tokyo : T. Hasegawa, 1904*  
請求記号 : A938-188(準貴重)

展  
示  
風  
景



会期 : 2019年10月10日-12月中旬  
場所 : 横浜図書館 1F 展示コーナー

(資料サービス課 荏原 直子)

# 図書館からのお知らせ

## 横浜・平塚共通

### ■冬季長期貸出について

対 象……学部生  
貸出受付期間……2019年12月2日(月)～12月26日(木)  
返却期限日……2020年1月10日(金)  
冊 数……10冊

### ■春季長期貸出について

対 象……学部生(卒年次生)  
貸出受付期間……2020年1月20日(月)～3月7日(土)  
返却期限日……2020年3月23日(月)  
冊 数……10冊

対 象……学部生(在校生)  
貸出受付期間……2020年1月20日(月)～3月24日(火)  
返却期限日……2020年4月8日(水)  
冊 数……10冊

### ■年末年始の休館日について

期 間……2019年12月27日(金)～2020年1月5日(日)

### ■一般公開休止について

後期試験実施に伴い、下記期間中の一般公開を休止いたします。

期 間……2020年1月6日(月)～1月27日(月)

## 編集後記

横浜には有名なジャズ喫茶が何店かある。ジャズ喫茶とは簡単に説明すると「ジャズのレコードをかけ、客がその鑑賞を目的に来店する喫茶店」である。

ジャズ喫茶にも色々あるが、横浜のある老舗の店にはやはり独特な緊張感がある。先客のリクエストしたレコードが流れる店内に足を踏み入れた途端、自分はこの店に来てよかったのだろうか、という不安がよぎる。勇気を出して席に座り、飲み物を注文してからひそかに周りを見回すと、レコードに聴き入っている一人客が多く、二人連れでも会話などしていない。この店では音楽の邪魔になるものは厳禁なのである。

しばらくすると、店の人がレコードのリストを持ってやってくる。聴きたいレコードがあればお選びください、ということだ。ここで何をリクエストするかで店の人にも他の客にも、こちらのレベルを見透かされてしまうのではないか。ちょっとした緊張の瞬間である。リクエストしたレコードの曲が年代物のスピーカーから流れる。今、ここでしか味わえない雰囲気がある。

誤解のないように言っておくが、店の方は心地よくジャズを楽しんでもらいたいと思っているだけだ。客の方が勝手に緊張しているだけなのである。それなのになぜ、わざわざそんなところへ出かけていくのか。それはジャズ、音楽に聴き入る時間、沈黙、緊張感、少しの居心地の悪さ、それらすべてがわるくないからだ。

オープンで親しみやすいもの。分かりやすいもの。それだけでは面白味も深みも生まれない。良質なものにはある種の緊張感が存在し、それに耐えうる受け手の精神も必要とされる。良質なものの内に身を置ける場所。図書館もそうありがたい。

(N.E.)

## 今号の表紙

### 神奈川大学図書館 開架閲覧室

図書館の中心的エリア。玄関に入って階段を上り、展示コーナー、雑誌閲覧室の前を通り、コントロールカウンターを抜けると、この図書館で一番広い閲覧室が目の前に広がる。

窓ぎわのエリアでは「ライブラリ・コンサート」なども開催された。

写真は2Fからの眺め。

